

第六章

お寺の活動

第六章　お寺の活動

一　報恩講

(一)　取りこし報恩講

親鸞聖人のご命日（一月十六日）にあたって、聖人のご苦勞をしおびつつ、未信の人は如來の本願を聞きひらき、^{おやく}獲信の人は味わいを深めさせて頂く、真宗門信徒にとつては一番大切な法座である。本山では毎年一月九日から十六日まで、御正忌報恩講として勤まるが、一般寺院では取りこして以前に勤まるので「おとりこし報恩講」という。

昔から西宗寺でも、十一月又は十二月に二日間又は一日、御講師をお呼びして、この法座が催されてきた。午前の法座のあと午後の法座までに、上東川津町下組門徒の女性による手作りのお斎が準備され、参詣された方々は御馳走になる。



報恩講のお斎

煮しめ（油揚げ・牛蒡^{ごぼう}・人参^{にんじん}・こんにゃく・芋）に酢の物・豆腐の味噌汁の味は今日まで受け継がれてき
ている。

(二) 門徒報恩講

東持田町納藏地区の報恩講は歴史が古く、各家で勤修されていた。古老の藤原さんの話によると、「各
家で家族・親戚^{せき}が一堂に集まり、如来さまにお参りした。子供達はお下がりのお供えを頂くのが嬉しくて、
お参りしたものです。又、御院家の話は堅苦しくて、当時の坊守（八千代）が日ごろの生活の中から法義
を話されて、分かりやすかった。」とのことである。素朴な中に家族と地域の仏様を通してつながりがあつ
たようである。この地区は家によつては、神棚もなく本当の真宗門徒としての姿が残っている。又、江戸
期には「お聖教」を筆で写したり、古文書を見るにつけ、熱心な信者のあつたことが伺われる。

この法座活動は、その後東持田町石野地区に始まり、下東川津町・西川津町市成地区・西尾町・上東川
津町へと年々拡大していった。各地区では、毎年会所を決め、地区門徒がその家の仏壇を中心として宗祖
の報恩の思いを語り、その後は懇親会が持たれている。「念佛の声を世界に子や孫に」のキャッチフレー
ズのごとく、家族や地域の中でお念佛が相続されることを願っている。

一一 法 座

(一) 修正会（元旦会）

新しい年を祝うとともに、眞実の教えに生かされる身の幸せをよろこび、念佛もろともに報恩の生活の第一歩を踏み出す法要。知洞住職のころは朝暗い六時に勤めていたが、顯信住職になり朝七時から、元旦と二日に勤修されている。新年の礼拝は神社だけとの誤った考え方でなく、年の初めに御仏前にお札をし、心を新たにするのは、意義深いことである。東持田町納藏地区では昔から、先ずは自分達のお寺の如来様へお参りからと家族の伝承が生きづいている。修正会にお参り出来ない場合は、礼儀として、まず御本堂に御挨拶、お参りしたいものである。

(二) 常例法座

平成十一年、永見伸治会長就任の時、「御院家さん、西宗寺には、毎月の法座がないですね」との質問に住職は心を動かされ、早速実施に移していった。仕事の都合もあるから、夜開催して欲しいとの発案から、毎月十六日（宗祖御命日）夜七時半から開催。経済的事情も考慮し、年間カリキュラムのもと住職の法話を聴聞し、ビデオ（作法・行事・宗祖アニメ）を見たり、相互の語り合いをしている。毎月十二～三名の参拝者があり、今後もこの開放講座が未信の人、不信の人



話し合い法座

平成15年度 常例法座

2月16日	学仏大悲心	たった一つのみことばの中に無量の仏徳がこめられている。仏語を学ぶとは。
3月16日	永代経法要	先祖の追慕を縁として、自分の存在を考える。
4月16日	聖教を読む	親鸞聖人がなぜ、御本典たる「教行信証」を撰述されたのか。
5月16日	聴 間	日々変化する人間社会の様相を聞くのではなく、法を説く人のこころぶりを聞くのでもない。
6月 7・8日	団体参拝 親睦の旅	浄土真宗のお寺に参拝し、あわせて観光と親睦を深める。
6月16日	淨土往生	生と死を超えて命を通い合わせるすばらしい世界。ほんとうとおもっている世界とは。死ねば灰になるだけなのか。
7月13日	文化講演会	「ガンも御縁でした」 龍谷大学教授 海谷則之先生
8月16日	お念佛	庄松をたすくるぞ 庄松をたすくるぞ。お経の意味さえわかればいいのか。酒も飲まずに酔うはずがない。
9月16日	妙好人	まるで白蓮華のごとく美しく、この上もなくすばらしい人生を生き抜く人。
10月16日	無 常	今日があったごとく明日があると思い、むなしく過ぎ去っていく日々。
11月 15・16日	報恩講法座	親鸞さまの徳をたたえ、感謝する門徒として最も大切な法要。
12月16日	本 願	仏様に願われている自分に気づく。未完成だからこそその願い。人生の価値を知らしめる。
1月16日	摂取不捨	いくら私が背を向けてもおさめとて捨てずという仏さまの大悲。源左さんのありのままの姿。仏さまのはたらき場。

勤修している。

(三) 永代経法要

この法要は死者に追善回向する意味ではなく、故人を縁として、寺に参詣し、故人を追慕し報恩の営みをするとともに、自分自身が聞法のご縁を頂く法要。平成十二年より再開し、春彼岸に県内布教使のもと

常例法座ご案内

本年最後の常例法座となりました。今年を振り返り、この一年を考えてみましょう。

合掌

自分を見つめることほど

勇気のいることはない

日時 12月16日（日）午後7時30分
場所 西宗寺 本堂



(四) 合同法要

本来、永代経法要と同じ意味であるが、昭和四十八年総会時に、「五十回忌以上（当初は百回忌以上）の古い法事は合同で実施して欲しい。古い先祖の法事も粗末にしたくない。」との発言から、毎年、春彼岸（春分の日）に参拝。永代経同様、今日の私達は過去の人々の姿があつたればこそと思うにつけ、心を込めてお参りしている。

(五) 宗祖降誕会

承安三年（一一七三）五月二十一日御誕生の親鸞聖人を祝い、聖人に対して感謝の心をもつて當まれる行事。松江市内の本願寺派寺院八ヶ寺が輪番で勤修する。戦後は法要・法話の後、各寺が趣向を懲らす楽しい行事であつたが、派手に成り過ぎるとのこととで昨今は、御法話の聴聞の場になつていて。当寺が会所になつた時は、門徒小学生五人に親鸞聖人の絵本を朗読させたり、納藏地区の方の「門徒の姿」を発表してもらつたりして、少しでも親近感のある行事にするよう努めている。平成十四年は「岩田アサオ布教使」の来寺でぎやかに開催された。

(六) 紐落とし



紐落とし

この地方では通例、七五三の祝いは神社で行うことが多いが、真宗の門徒として、便宜や都合で他の宗教の儀礼で行わず、深い教えの裏付けにもとづいて実施したいものである。毎年一、二の家族が十一月中旬に住職と相談の上実施されている。

三 仏教婦人会活動

浄土真宗本願寺派（西本願寺）の仏教婦人会活動は、明治四十年（一九〇七）から始まった。本山（京都西本願寺）に連合本部が設置され、初代本部長（総裁）を九條武子が務めた。第二十一世明如門主の娘で、九條家に嫁していた縁である。「お念佛の教え」は親から子へ、子から孫へと、家庭のお仏壇を中心として代々受け継がれていくものである。時代を担うべき子供の養育に携わる女性こそ、まずしつかりとした知性と人格を持たねばならないとの認識から、九條総裁は女子教育の発展と社会福祉に力を注がれた。

現在は仏教婦人会総連盟と改称され、代々の総裁には本願寺門主のお裏方（夫人）が就任される。機関誌「めぐみ」が年四回発行され、仏の子供の育成、ダーナ（パーリー語で与える、人に役立つことをするの意味）の呼びかけ、ビハーラ活動（サンスクリット語で僧院、心身の安らぐ休息の場所）など、時代の変化に応じた係り方を進めている。

西宗寺仏教婦人会は、平成九年四月、正式に総連盟に登録して活動を始めた。それ以前は、寺単独の法座を年一回開く程度のものであった。松江組^そに十二単位の各寺院の仏教婦人会があり、年間数回合同で催

しを持っている。西宗寺も規約を定め、総会、役員会を開くなど、会としての体裁も整い、様々な活動を行なうようになった。法座への出席、松江組や山陰教区で開かれる研修会への参加を呼びかけているが、若い世代に、どのようにお寺に足を運んでもらうかが課題である。

(一) 文化講演会

お寺の法座は、仏さまの法話を聞くものというのが従来の考え方であつた。しかし、現代は様々な情報が手に入り、生活が豊かになっているというのに、生きている実感が薄れ、命が軽んぜられているのは残念なことである。仏法は本来人の生活の中に生かされるものであるが、実生活との関連が見えにくくなっているのが現状である。仏教文化講演会では、子育ての問題、終末医療の現場から、また「ガンもご縁でした」というテーマでの講演など、身近な話題を通して、「生きされている私」に気づき、真宗門徒として、報恩感謝の生活とはどのようなことを言うのかを考える場となつてている。将来はそれがダーナやビハーラ活動に発展していくことを希望するのである。

(二) 初参式



文化講演会（旧本堂で）

ご案内



西宗寺婦人会総会

今年度の仏教婦人会の総会を開催いたします。

総会のあと、婦人会主催の初参式をお勧めします。

どうぞご出席ください。

日時 4月8日(日) 午前10時より

場所 西宗寺本堂



初 参 式

新しい「いのち」の誕生をお祝いして、お釈迦様がお生まれになった日に初参式をお勧めします。昨年1月以降に誕生の赤ちゃんがおいでのご家族の方々、どうぞお参りください。

日時 4月8日(日) 午前11時より

申込 西宗寺(電話 25-6643)へ、3月末日まで

四月八日はお釈迦様の誕生日である。この世にご縁を頂いて生まれた赤ちゃんをお祝いして、四月に初参式を開いている。若いご両親、喜びいっぱいのご家族がそろって仏前で誕生を報告し、和やかに記念写真を撮る姿に、これから的人生を力いっぱい歩んでいくつて欲しいと願わざにはいられない。



初 参 式

西宗寺仏教婦人会規約

(名称・事務局)

第一条 本会は西宗寺仏教婦人会と呼び、事務局を西宗寺に置く。

(目的)

第二条 本会は淨土真宗の教義に基づき、婦人の信仰を確立し、教養を高め、会員相互の親睦を図り、ご法義の相続に努める。

(事業)

第三条 本会は前条の目的を達成するためには次の事業を行う。

- (1) 講習会、研修会の開催
- (2) 各種行事、大会等への参加
- (3) その他必要事項

(役員)

第四条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 一名
- (2) 副会長 二名
- (3) 委員 若干名

(1) 役員の任期は三年とする

(2) 副会長、役員が会計、庶務を担当する

(3) 本会に参与を置く、参与は住職、坊守があたり会の運営に参加する

(会議)

(第五条)

会長は毎年一回総会を召集し、次の事柄を協議決定する。

(1) 事業の計画に関する事柄

(2) 役員の改選

(3) 予算及び決算に関する事柄

(1) 役員会は必要あるとき隨時開くものとする

(経費)

(第六条) 本会の経費は西宗寺門信徒会よりの補助金と会員の会費によつてこれに充てる。

(会計年度)

(第七条) 本会の会計年度は毎年四月一日に始まり、翌年三月三一日に終わる。

(附則)

この規約は平成九年四月一日より施行する。

四 奉仕作業

戦前・戦後は寺への手伝いとして、冬季の薪をつくつて「ししし」にしておくことが慣例であった。毎年一回ないし二回、現在の「あじさい団地」の寺山の雑木を切り、庫裏の裏に積む（これを「ししし」という）ことが昭和四十年代前半まで続いた。電気もガスも一般的でなかつた時代には大切な燃料であつた。その作業の後、十二世坊守（ノブヨ）の秘密のうちにつくられた「ドブロク」の振る舞いは格別なものがあつた。

その後社会的変化の中で、小山良孝会長の折、「ガス・電気の時代になり薪は不要になつてきたが、お寺への奉仕活動は何等かの形で続けよう」との言葉から、春の彼岸、盆前、報恩講前の三回、各地区輪番で境内清掃、本堂掃除、仏具磨き、裏山整備等をしながら今日に至つてゐる。



仏具のお磨き

五 子供研修会（子供会）

顯信住職は大学在学中、宗教教育部に在籍し、毎週日曜日に子供達を寺に集め宗教的情操教育に情熱を注いでいた経験に基づき、昭和四十一年から門信徒の子供達を中心子供一泊研修会が始まった。手狭な旧本堂で寝食を一緒にしながら、ゲームをしたり、水鉄砲を作つたり、ソウメン流しをしたり、また境内でキヤンプファイヤーをし一泊一日を楽しんできた。参加者が多い時は七十名近くもあつたが、学校のクラブ活動、また習い事に加え、親の意識の変化もあつて減少し、現今は二十名以内になつてきている。しかし、新しい時代を担う子供達のささやかな心の教育の場として続けていつて欲しいものである。



夏休み一泊子供会

第16回 西宗寺一泊子ども会

元気いっぱいのチビッ子、あつまれ！！
海や山もいいけれど
すこしちがった夏休みのすごし方
西宗寺の子ども会へ来てみないか？
新しい友だちを作ろう
楽しいお兄さんが2人待ってるよ
お寺の生活ってどんなかな
おじさんもおばさんも、みんなを待ってるよ
楽しい時間がみんなを待ってるよ

おうちの方へ

非行がますます低年齢化する中で、道德心、宗教心といった、内面の問題が見直されています。子供の清らかな心を大切に伸ばしたいという願いをこめて、16回目の一泊子ども会を計画いたしました。どうぞ多数のご参加をお待ちしております。

日 時 8月9日（火）ごご 1時30分～2：30 受付
8月10日（水）ごご 1時 昼食を終えて解散
対 象 幼稚園児・小学生 中学生（指導者リーダー）
持 参 品 参加費 1000円 ねまき、タオル、歯ブラシ
タオルケット（かけて寝るもの、バスタオルでも可） 筆記用具
米 3合 おじゅず（ない人はこちらで用意）
以上、当日もってきて下さい。

会場及び問い合わせ

松江市上東川津町845 西宗寺 T E L (25) 6643 有線 2795
指 導 竜谷大学伝道部学生 2名

以上

六 親睦旅行

経済状況がよくなるにしたがつて、旅行を楽しむ家庭も次第に多くなってきた。それに応えて昭和四十年に矢野繁義氏を中心として本山参拝が実施された。^{いた}山陰本線を利用して二十七名の門信徒とその御縁の方々が参加した。当時在学中であつた顯信師が案内して、西本願寺と比叡山・鞍馬山に参詣した。その後、昭和四十八年に野津時雄氏を中心に二十六名が参加して再開された。夜十時にバスで松江を出発し、本山の朝の勤行にお参りした後、市内観光を行い、夜は宴会とスケジュール一杯の楽しい旅であった。平成四年に再び「本山参り」をとの声が上がり、平成十一年以後、役員の企画・立案のもとに親睦と研修の旅が続いている。一泊一日の限られた日程の中で、九州・四国・関西・北陸と趣向をこらした旅が、今後とも開催され相互の交流の場となっていくことを



国宝 本山唐門の前で

願つている。

七 仏前結婚式

本堂が新築されたのを機に、本堂の如来様の前で結婚式を行う家族もある。結婚という人生の新しい門出を、二人が仏前に誓い合うことはすばらしいことである。披露宴は別として、厳粛な中に心温まる式典が行われる。



仏前結婚式